

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/1878">https://repository.ninjal.ac.jp/records/1878</a>

# 日本語教育論集

23号 2007

[本号の読みどころ]

[研究論文]

日本語学習者による格助詞の混同－存在場所の「に」と範囲限定の「で」－  
岡田 美穂・林田 実

文法学習に関する信念・態度，学習ストラテジー，学習成果の関連  
－暗示的帰納的指導のコンテキストの中で－

向山 陽子

[報告]

学習者は「ね」の意味をどのようにとらえているか  
－「ね」の自然さに関する評定調査に基づく考察－

堀池 晋平

[英文要旨]

お知らせ：特集「教科書で教える」投稿募集

『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

日本語教育論集

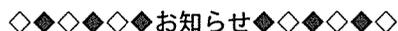
23

2007

# 日本語教育論集 第23号

## 目次

[本号の読みどころ]	1
[研究論文]	
日本語学習者による格助詞の混同 –存在場所の「に」と範囲限定の「で」– 岡田 美穂・林田 実	3
文法学習に関する信念・態度，学習ストラテジー，学習成果の関連 –暗示的帰納的指導のコンテキストの中で– 向山 陽子	17
[報告]	
学習者は「ね」の意味をどのようにとらえているか –「ね」の自然さに関する評定調査に基づく考察– 堀池 晋平	33
[英文要旨]	49
お知らせ：特集「教科書で教える」投稿募集	52
『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領	53
編集後記	54



### 特集「教科書で教える」 投稿募集

『日本語教育論集』では、次号第24号（2008年3月発行）において、「教科書で教える」と題した特集を組むことにいたしました。以下の要領で投稿を募集しますので、多くの方々の積極的な投稿をお待ちしております。

#### ◆特集「教科書で教える」の趣旨

「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」のだ。——これは、教育に携わる人のほとんどが耳にしたことのある言葉だと思います。では、具体的に何をどうすれば「教科書で教える」ことになるのでしょうか。また、教科書以外にさまざまな教材があふれる中、教科書を使って教えることにはどのような意味があるのでしょうか。教科書を使ってすばらしい成果を挙げている教師・学習者は、教科書をどのように使っているのでしょうか。そして、教師や学習者が「この教科書は使いにくい」と言うとき、そこには「教科書を教える／学ぶ」という感覚が紛れ込んではいないのでしょうか。

このような問題意識をふまえ、今回の特集では、「教科書で教える」ことをめぐるさまざまな問題に、具体的な教育実践を通してアプローチした研究論文、報告、研究ノートを募集します。「教科書で教える」ことの意義、「教科書で教える」ための具体的な方法や工夫、「教科書で教える」ことの可能性、「教科書で教える」ために必要なこと、など、「教科書で教える」ことをめぐって、さまざまな議論がなされることを期待しています。

- ・原稿の書式や送付先など、投稿に関する詳細は『日本語教育論集』投稿規程・執筆要領に準じます。
- ・締め切りは「2007年9月1日」（必着）です。
- ・投稿の際は、原稿に添付する別紙に「特集『教科書で教える』への投稿である」旨を明記してください。
- ・次号第24号では、特集以外のテーマに関する投稿も通常通り受け付けています。こちらの方も活発なご投稿をお願いいたします。

## 『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

1. 目的  
本誌は、日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究、特に、教育実践にもとづいた研究、新たな視点に立つ研究、将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより、日本語教育の発展に寄与しようとするものである。
2. 投稿資格  
上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。
3. 原稿の種類  
投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、学会における口頭発表等を論文の形式にまとめなおしたのも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。  
  
研究論文：オリジナルな知見や提言を含む理論的、実証的な研究論文  
報告：教育実践の報告・分析、調査報告、等  
研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の、萌芽的・探索的な段階の研究・報告、等  
  
尚、特定のテーマを設け、内外の研究者に執筆を依頼することがある。
4. 原稿の書式その他
  - 1) 原原稿は日本語または英語で執筆する。
  - 2) 原稿は和文論文の場合、A4判横書き、40字×35行で作成し、研究論文および報告は14ページ以内、研究ノートは8ページ以内とする。英文論文の場合、A4判1ページあたり30行とし研究論文および報告は20ページ以内、研究ノートは12ページ以内。いずれも、タイトル、図表、資料等を含むこととする。
  - 3) タイトル(和文および英文)、要旨(和文論文の場合は300字以内、英文論文の場合は200語以内)、キーワード(5つ以内)、本文の順で記述する。
  - 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。
  - 5) 3)に示した要旨とは別に、英文要旨・英文キーワード(和文論文の場合)または和文要旨・和文キーワード(英文論文の場合)を添付する。分量は3)と同じ。
  - 6) 原稿はワープロを使用してできるだけ
5. 投稿締め切り  
24号においては、2007年9月1日(必着)を締め切りとする。
6. 採否の決定  
本誌編集委員会が査読・審査し、採否を決定したうえ、締め切り日から3か月以内に結果を知らせる。
7. 採録決定後の修正  
採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める(あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する)ことがある。
8. 採録となった執筆者には、掲載号2部を進呈する。
9. 著作権
  - 1) 図版の転載など著作権にかかわることからは、投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。
  - 2) 掲載された論文等の著作権(著作権法第27条、28条を含む)は国立国語研究所に帰属する。
10. 発行予定  
2008年3月末  
  
\*投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会  
\*問い合わせは、文書・FaxまたはE-mailで編集委員会まで。  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会  
Fax: 042-540-4571  
E-mail: ronshu@kokken.go.jp  
URL: <http://www.kokken.go.jp/>

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

第23号には14編の投稿がありました。厳正な審査を経て、その中から、研究論文2本、報告1本の計3本が掲載されることとなりました。この3本はいずれも日本語学習者に注目をした研究です。

本論文集は、日本語教育および日本語教師教育における様々な分野のうち、特に、教育実践にもとづいた研究を積極的に紹介することが目的の一つとなっております。今回掲載された3編の論文は、実践にもとづく研究ではありません。しかし、学習者の習得、認識、ビリーフ等を扱った研究であり、学習者理解を促し、教育実践に貢献をする内容であると言えます。

こういった研究、つまり学習者が何をどうとらえ、どう学んでいるのかを知ることは、日常の教育実践を支える教師の知識・ビリーフに揺さぶりを与え、自身の授業を見直す大きなきっかけとなり、教師の知識・能力を再構成することにもつながります。一つ一つの研究から明らかになることが、はたから見ればごくわずかの事柄であったとしても、それが教師を動かす大きなきっかけとなる可能性があること、そして、そういった研究の積み重ねが、日本語教育における実践研究を成長させていく基盤となることを期待し、今後も本論集の刊行を続けていきたいと考えております。

皆様の積極的な投稿を期待しております。また、本誌に関する御意見もお待ちしております。

編集委員会（記：金田）

\*本誌の投稿規程、今までに掲載された論文のタイトルや要旨は、国立国語研究所ホームページ：<http://www.kokken.go.jp/>でご覧いただくことができます。

\*御意見・御質問はこちらへ：[ronshu@kokken.go.jp](mailto:ronshu@kokken.go.jp)

『日本語教育論集』23号 執筆者

岡田 美穂（九州女子大学別科日本語研修課程）・林田 実（北九州市立大学  
経済学部）

向山 陽子（お茶の水女子大学大学院博士後期課程）

堀池 晋平（Ikoma Language School, Singapore）

日本語教育論集編集委員会

委員

阿久津 智（拓殖大学）

阿部 洋子（国際交流基金日本語国際センター）

井上 優（国立国語研究所）

宇佐美 洋（国立国語研究所）

金田 智子（国立国語研究所）

河野 俊之（横浜国立大学）

野山 広（国立国語研究所）

文野 峯子（人間環境大学）

査読協力者（所属略）

池上摩希子，小河原義朗，才田いずみ，佐藤 琢三，柴原 智代，島田めぐみ，  
庄司 恵雄，館岡 洋子，浜田 麻里，ボイクマン総子，山内 博之

事務局

二瓶 知子

日本語教育論集 23

---

発行 平成19年3月 平18-14

編集 国立国語研究所

日本語教育基盤情報センター

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

TEL:042-540-4300（代表）

FAX:042-540-4571

URL:<http://www.kokken.go.jp/>

---

2007

日本語教育論集

ISSN 1346-9762